

2024（令和6）年度  
自己推薦入試  
課外活動推薦入試  
卒業生子女・弟妹入試  
[外国語学部]  
小論文問題

注意

- 1 開始の合図があるまでは、開かないこと。試験時間は六〇分である。
- 2 黒色鉛筆を使用すること。
- 3 解答用紙の所定欄に、氏名・受験番号を記入すること。
- 4 縦書きにすること。
- 5 下書きには、この用紙の余白を使用すること。
- 6 書き損じても、解答用紙は再交付しない。
- 7 この用紙は、試験終了後に回収しない。

解答要領

解答は問題文中の設問の指示に従って、解答欄に適切に書くこと。  
なお、句読点・かっこなども字数に加える。また、段落の初めの空きや、段落の終わりの行にできた空きも、書いてあるものとみなし、字数に加える。

次の文章を読み、設問に答えなさい。

2022年は、オンライン空間にとって大きな転換点となるのかもしれない。10月、イーロン・マスク氏がツイッターを買収。「言論の自由」を理由に、新型コロナウイルスに関するデマ削除の停止をサイトで告知した。16年以降、アメリカのIT大手がどう誤情報と戦い、どんな対策を取っているかは大きな 이슈となった。同年の米大統領選が、組織的な誤情報の拡散によって、選挙結果が左右されたとみられるからだ。その大きな流れがマスク氏という強烈な個性で逆流しようとしている。

今回の騒動で明らかになったのは、ネット時代の公共空間とは一体どうあるべきか、という問いだ。ツイッターやフェイスブック（現メタ）は、政治家や著名人、各国当局が公式見解を述べる、事実上の公共空間だ。しかしその運営が、資本主義の論理に委ねられ、オーナーである富豪の思惑次第で、言論空間が制御されたとしたら。民主主義と公共性と資本主義の間で、強大な力を持ちつつ揺れ動く、プラットフォームという存在のもろさ、あいまいさが改めて明らかになった形だ。

国境も人種も言語も関係なく、誰もが自由闊達（かつたつ）に意見交換ができる。インターネットの登場以来、多くの人が見続けてきた夢だ。しかし、誹謗（ひぼう）中傷や誤情報が飛び交う現実には、「みんなとつながれるようになって、ならなくてもいいのかも」と思い始める。これが、小さな分断の始まりなのだろう。

ツイッターもグーグルもフェイスブックも、公共性はあっても、公共物ではない。しかし「ネットで議論は無理だよ」と諦めたからといって、すぐに代わりの言論空間が現れるわけでもない。私たちはどうやって、デジタル時代の「公共性」を考えなければいいのか。悩みは尽きない。

（伊藤大地 2022年12月3日 朝日新聞 日刊「メディア空間考…デジタル時代の「公共性」とは ツイッター買収で明らかになった課題」 [朝日新聞社に無断で転載することを禁ずる](#)（承認番号 24-0634）

設問 オンライン上の言論空間はどのようなものであるべきでしょうか。本文の議論をふまえた上で、あなたの考えを述べなさい。（601字以上800字以内）